

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
1.NPO法人SDS家族の会	16	<p>電話やミーティングによる心のケア：SDS、流産、死産などで赤ちゃんを亡くした遺族を精神面でサポートする目的で、電話・メール・ミーティングで相談に対応。会報や小冊子なども提供する。赤ちゃんを突然に亡くした遺族が対象。電話やメールによるアクセスは年間約500件、ミーティング参加者は全国各地で延べ約200名、電話・メールは随時。ミーティングは全国で延べ約40回。それまでサポートを受けていた遺族の中からサポートにあたるピフレンダーが新たに10名増えた。</p>		<p>電話やミーティングによる心のケア： ・第8回SDS国際会議（エドモントン）への参加、欧米諸国における活動を学ぶ。国際会議は医師、保健専門家、遺族や学生などが対象。 ・SDS、流産、死産などで赤ちゃんを亡くした遺族を精神面でサポートする目的で、電話・メール・ミーティングで相談に対応。会報や小冊子なども提供する。赤ちゃんを突然に亡くした遺族が対象。電話・メールは随時。ミーティングは全国の公共会議室などで述べ40回程度。</p>
2.(社)恩賜財団母子愛育会	3, 8, 9, 12, 15, 19, 28, 33, 44, 45	<p>研修会「母子保健専門指導員研修会」 リプロダクティブヘルス 母子保健サービス 児童虐待への対応 目的：母子保健の課題と最新情報の修得、問題点の的確な把握及び対応能力の向上 対象：自治体勤務の保健師、助産師、看護師等母子保健関係者 98名（延 開催数：3回） 効果：母子保健の課題と最新情報に関する知識・技術の修得により、母子保健専門指導者の育成に寄与</p>		
	19, 23, 28	<p>セミナー「周産期医療における生命倫理」 目的：周産期における医療事故に関する理解を深める 対象：医師、看護師、助産師、保健師、福祉・教育関係者 24名 開催数：1回 効果：医療事故に焦点をあてた講義・提言を基に討議を行い参加者の意識の向上を図るとともに医療事故に対する適切な判断力を培う</p>		
	15, 19, 20, 23, 24, 25, 44, 52, 53, 60	<p>研修会「周産期医療研修会」 医師コース 看護コース 目的：医師、看護師、助産師に対して新生児・未熟児の診断・治療・看護等の最新の理論と技術、情報を提供 対象：周産期医療に従事している医師、看護師、助産師。医師 58名、看護師等 212名（延） 開催数：4回 開催（医師 1回、看護師等 3回） 効果：新生児・未熟児の診断治療に関する最新の知識と技術を習得させより高度な医療と看護を提供</p>		

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
2. (社)恩賜財団 母子愛育会	15, 46, 48, 53	母親学級等の開催 ・母親学級 (妊産婦指導、妊産婦対象、週 1回開催) ・母と子のふれあい講座 (育児講座、親と子対象、週 1回開催) ・家族立ち会いクラス (出産立ち会い講座、夫対象、週 2回開催) ・うさぎの会 (極低出生体重児のケア、原則 2～3歳児 家族対象、月 1回開催) ・タッチケアクラス (赤ちゃんと両親のふれあい、両親と赤ちゃん対象、週 1回開催) ・マタニティピクス (妊婦の運動講座、妊婦対象週 4回開催)		
13. 全国助産師教育協議会	15, 20 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」ができる助産師教育の検討	第40回全国助産師教育協議会総会 (H.16.5.21～22) 目的・内容：分婯実習改善」検討会では、平成14年度、「大学における助産師教育の実態調査」、平成15年度「専門学校 短期大学専攻科における助産師教育の実態調査」の検討結果を報告した。 対象：全国の助産師教育関係者 参加者：147名 開催数：年1回 効果：分婯介助実習が量的・質的に教育機関による差の大きいことが明らかとなり 実習内容の見直しの重要性が認識された。	15, 20 助産師教育内容の検討	総会の開催：委員会活動報告 2005 .5.21-22 目的・内容：妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」ができる助産師教育についての検討 対象：全国助産師教育関係者 機関会員数 90校 個人会員数 347名
	15, 20 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」ができる助産師教育の検討	全国助産師教育協議会 北海道・東北地区での研修会 目的・内容 講演会「伝えたい助産師の心と技」(講師：開業助産師 五十石 ちよ氏) 対象：北海道・東北地区の助産師教育関係者 参加者：49名 開催数：1回 効果：妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保」ができる助産師の専門能力の育成に向けて、助産師教育の意義と重要性をさらに認識された。	15, 20 助産師教育内容の検討	総会の開催：委員会活動報告 2005 .5.21-22 目的・内容：第30回全国助産師教育協議会研修会 2005.5.14～15 対象：全国助産師教育関係者 機関会員数 90校 個人会員数 347名 開催数：年1回～2回

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
13.全国助産婦教育協議会	15, 20 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」ができる助産師教育の検討	全国助産師教育協議会NEWS LETTER No46 2005.2.25 目的・内容・関連記事 「産婦に関する看護師業務」や「助産師の業務 内診に関する内容」について緊急提言：助産師の専門能力の育成に向けて」の私案（全国助産師教育協議会会長 平澤美恵子氏）を掲載した。 / 関連記事 京都で開催された正常産カンファレンスでの英国の助産師Soo Downey博士の基調講演の内容の紹介（宮崎大学医学部看護学科 大石時子氏）を掲載した。 対象：全国の助産師教育関係者 配布数：NEWS LETTER年4回発行 発行部数500部 効果：妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保」ができる助産師の専門能力の育成に向けて、助産師教育の意義と重要性をさらに認識された。	15, 20 助産師教育内容の検討	NEWS LETTERの発行 目的・内容・関連記事の掲載 対象：全国助産師教育関係者 機関会員数 90校 個人会員数 347名 配布数 500部
16. (社)全国保健センター連合会	15, 16	女性の健康エクササイズセミナー 内容：女性のライフステージ（思春期・不妊・妊娠・産後・更年期等）に対応した健康づくりの基礎とエクササイズの修得を目的とする。 対象：市町村保健師等 65名 開催数：1回開催（東京都） 効果：女性の健康づくりについての知識やエクササイズに関する技術の修得を通じ、実践の場で理論的な説明を含めた実技指導を行うことのできる指導員を養成した。	15, 16	女性の健康エクササイズセミナー 内容：女性のライフステージ（思春期・不妊・妊娠・産後・更年期等）に対応した健康づくりの基礎とエクササイズを修得するための研修会を実施する。 対 象：60名 開催予定：1回 3コース（東京都）
				リーフレット作成・配布「お産のためのエクササイズ」「毛ぐもぐごっくん」「おなかすいた」「ごはんまだ？」 絵本と出会う」 内容：市町村保健センター等への配布により妊娠・育児期の有効な指導の支援をはかる。 配布先：市町村保健センター、研修会参加者等

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
20. (社)日本医師会	20	<p>平成16年度家族計画・母体保護法指導者講習会を開催 平成16年12月4日(土)</p> <p>目的・内容:母体保護法をめぐって 行政の立場から 母体保護法指定医師の指定基準モデルについて 母体保護法の適正な運用 着床前診断</p> <p>対象:日本医師会、日本産婦人科医会会員 参加人数:約200人 開催数:1回開催</p> <p>効果:産婦人科医が、母体保護法についての、認識を深めることができた。</p>	20	<p>平成17年度家族計画・母体保護法指導者講習会を開催予定 平成17年12月3日(土)</p> <p>対象:日本医師会会員、日本産科婦人科医会会員 参加人数:200人を予定 開催数:1回開催予定</p>
		<p>風疹流行にともなう母児感染の予防対策構築に関する研究班作成のポスターの配布。2月1日号の日雑誌で配布</p> <p>目的・内容:風疹の予防接種率の向上</p> <p>対象:配布対象:日本医師会会員約16万人</p> <p>効果:風疹の予防接種の重要性について、普及・啓発することができた。</p>	20	<p>母体保護法指定医師の指定基準」モデル等に関する検討委員会(プロジェクト)の開催</p> <p>対象:未定 開催数:未定</p>
22. (社)日本家族計画協会	全般	<p>平成16年母子保健家族計画全国大会(健やか親子21全国大会)</p> <p>目的・内容:「健やか親子21」を推進するための全国大会</p> <p>対象:行政関係者・医師・コメディカル及び、健やか親子21の推進関係者</p> <p>開催数:1回(宮城)</p> <p>効果:健やか親子21の推進のための啓発になった。</p>	2, 3, 4, 8, 9, 21, 22, 29, 30	<p>電話相談「女性のための健康ホットライン」、思春期・FPホットライン、不妊ホットライン、OCサポートコール」</p> <p>目的・内容:思春期の精神的・肉体的な問題に対する悩み相談及び、一般婦人の健康問題に対する悩み相談</p> <p>対象:思春期の子ども及び一般</p> <p>開催数:毎週月～金 10:00～16:00</p>
	15, 16	<p>妊娠について悩んでいる者に対する相談援助等事業</p> <p>目的・内容:快適な妊娠・出産のための相談事業</p> <p>対象:妊婦一般</p> <p>開催数:全国4ヶ所(宮城、大阪、鹿児島、東京)</p> <p>効果:妊娠及び出産の不安解消と、正しい知識の普及</p>	15, 16, 20, 22	<p>妊娠について悩んでいる者に対する相談援助等事業</p> <p>目的・内容:妊娠・出産についての悩みの相談と安全な出産への相談と指導</p> <p>対象:一般の妊婦</p> <p>開催数:全国に4ヶ所の拠点を中心に啓発</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
22. (社)日本家族計画協会	15	パンフレット「お産のあとのあなたと赤ちゃんの健康」配布 目的・内容 第1子出産後の母親に配布、母親と赤ちゃんの健康について啓発 対象 母親 開催数 260,000部 (日本産婦人科医会の協力) 効果 :はじめての出産に対する不安の解消や、知識の習得による健康の保持	全般	平成17年母子保健・家族計画全国大会 (健やか親子21全国大会) 目的・内容 :健やか親子21」の普及啓発 対象 :健やか親子21」の推進関係者 開催 奈良
24. (社)日本看護協会	15	研修会「フリースタイル出産の援助技術」の開催 目的 妊産婦のニーズに応え、個を尊重した安全で安楽な分娩を支援する具体的な援助方法を学ぶ 対象 :平成16年6月3・4日 神戸研修センター (参加者50名) 平成16年8月9・10日 看護教育 研究センター (参加者50名) 平成16年11月25・26日 看護教育 研究センター (参加者53名) 開催数 2日間×3回 効果 妊産婦による多様な出産スタイルの選択を支援できるようになった。	15	研修会「妊産婦の主体性を引き出すファシリテータの役割」の開催 内容 :母親学級などの教育 運営・ケア提供 資源に関する情報活用 他職種との協働 専門職としての自律と責務 母親学級などの企画 運営 対象 :看護職 開催数 3日×2回 (定員各50名)
	15	研修会「参加型妊産婦のトレーナーズ研修」の開催 目的 :保健指導者自身が相手をひきつける自らの力を発見し、マンネリ化しやすい母親学級や育児指導などの魅力的な展開ができる。 対象 :平成16年10月12～14日 看護教育 研究センター (参加者72名) 開催数 3日間×1回 効果 :母親学級や育児指導の質が向上した。	15	研修会「フリースタイル出産の援助技術」の開催 内容 妊娠、出産における看護の役割 お産におけるEBM 病院、施設におけるアクティブバース、フリースタイル出産 治療的關係 専門職としての自立と責務 対象 :看護職 開催数 2日×2回 (定員各50名)
	15	研修会「母子のメンタルヘルス」の開催 目的 妊産婦ならびに育児中の母親のメンタルヘルスカケアを学ぶとともに、母子保健に携わる看護および他の専門職、関係機関と連携を図るための知識を得る。 対象 :平成16年11月8～10日 神戸研修センター (参加者110名) 開催数 3日間×1回 効果 :母子保健に関わる看護職の母子のメンタルヘルスに対する認識が高まった。	19	研修会「先天異常をめぐる周産期看護」の開催 内容 :実践における説明責任と自己の役割 倫理実践 実践を裏付ける関係法規 母性看護領域のケア提供に関わる主要理論とその活用 / 治療と看護の知識 ケア提供資源に関する情報活用 母親学級などの教育と運営 他職種との協働 / 専門職としての自律と責務・EBNを用いた看護実践 基準・ガイドラインの活用 対象 :看護職 開催数 3日 (定員50名)

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
24.(社)日本看護協会	22	不妊看護認定看護師の育成 目的 施設において、不妊の問題を抱えたカップルに対して適切なアセスメントを行い、全人的なケアを実施し、その卓越した実践能力を基盤として、他の看護職に対する相談 指導を担う能力を育成する。 対象 :平成16年10月1日～平成17年3月25日 神戸研修センター (修了者14名) 開催数 645時間 効果 :不妊看護領域に卓越した看護実践能力を発揮する看護師を育成した。	20	院内助産院推進のための普及啓発 内容：『院内助産院開設に関する手引書』の作成および配布 院内助産院に関する研修会の開催 対象 :看護職 開催数 未定
	22	研修会「生殖医療と不妊看護の役割」の開催 目的 :生殖に関わる医療の進展と倫理的課題について不妊看護の果たす役割を考える。 対象 :平成16年5月6・7日 神戸研修センター (参加者85名) 開催数 2日間×1回 効果 :生殖医療に関する看護職の倫理観が高まると同時に、倫理的問題に対する解決能力が向上した。	20	助産師の質向上に関する検討 内容：医療機関における助産ケアの質評価 - 自己点検のための評価基準 - の内容・項目等の評価
			22	不妊看護認定看護師の育成 目的 施設において、不妊の問題を抱えたカップルに対して適切なアセスメントを行い、全人的なケアを実施し、その卓越した実践能力を基盤として、他の看護職に対する相談 指導を担う能力を育成する。 内容 :共通科目120時間、専門基礎科目105時間、専門科目120時間、演習75時間、隣地実習225時間 (合計645時間) 対象 :看護職 開催数 6ヶ月 (定員15名)

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
26. (社)日本産科婦人科学会		<p>地方部会担当公開講座 目的・内容：女性のライフサイクルにおける健康支援に関する話題を取り上げ、一般の方への啓発を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性のための健康講座（思春期の性、内臓症、更年期）（北海道） ・女性の健康を考える（更年期、癌）（青森） ・中高年女性の美容と健康（岩手） ・妊娠中のあなたへのちょっとしたアドバイス（山形） ・女性のための健康セミナー1（健康とスポーツ、がん予防）（茨城） ・今、摂食障害を再考する（栃木） ・食生活と癌（子宮体癌）（埼玉） ・DVIについて学ぶ（千葉） ・地域のお産を考える（静岡） ・婦人科がん検診（富山） ・母と娘の産婦人科フォーラム（子宮癌、卵巣癌、乳ガン）（石川） ・抗癌剤の副作用に立ち向かって（岐阜） ・子どもを育てることの楽しさと厳しさ（滋賀） ・女性特有の痛みに対処する？ 月経痛、慢性骨盤痛から骨粗鬆症の痛みまで（大阪） ・更年期を美しく健康に（奈良） ・体にやさしい治療を求めて（和歌山） ・女性の健康を考える（頸癌検診、性感染症）（鳥取） ・女性のための健康講座（鳥根） ・健康な赤ちゃんを産むために（岡山） ・女性のためのがん予防講座（徳島） ・みずみずしいお肌と健康を維持する（香川） ・第18回性教育セミナー（愛媛） ・骨粗鬆症について（高知） ・自分の体と愛する人を大切にするために-性感染症とその影響-（福岡） ・中高年の健康講座（更年期、骨粗鬆症）（佐賀） ・他人に聞けない悩み（尿もれ、おりもの・かゆみ、子どもが出来ない）（熊本） ・よい子を産むために（宮崎） ・「女性の性感染」(性感染と、子宮癌、不妊、妊娠、青少年期の教育と指導)（沖縄） <p>対象：一般 総計2,951名+ 開催数：全国28カ所で開催 効果：女性のライフサイクルにおける健康に関する専門的な情報の啓発を図ることができた。</p>		<p>地方部会担当公開講座 目的・内容：女性のライフサイクルにおける健康支援に関する話題を取り上げ、一般の方への啓発を行う</p> <p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婦人科がんで死なないためには安全な出産に向けて ・卵巣癌の早期発見と治療（仮題） ・岐阜県の性感染症の実態 ・婦人科癌に関する内容 ・21世紀の女性の健康（仮題） ・癌の撲滅を目指して-子宮癌・卵巣癌の治療の現況- ・女性の健康を考える ・女性のための健康講座 ・婦人科がん検診 ・性差を考慮した女性医療 ・卵巣がんについて（未定） ・第19回性教育セミナー <p>対象：一般 開催数：全国30カ所で開催予定</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
35.日本助産学会	15, 20	研究助成 目的・内容：＜委託研究＞「安全な妊娠・出産のための妊婦の日常生活習慣評価に関する研究」 ＜奨励研究＞「子どもが母親の出産に立ち会うことの心理的影響に関する研究」 「出生直後ケアにおける安全なポジションの検討」 「病院助産師の職業性ストレスおよびケアの質と労働環境との関連」 対象：委託研究（助成額50万円）1件、奨励研究（助成額30万円）3件 効果：妊娠期・分娩期における諸現象に焦点を当てた基本的研究の成果をもとに、満足できる妊娠・分娩への支援に向けたEBMとすることができる。 また、質の高いケアの提供のために助産師を研究対象とした基本的研究は今後も必須である。	15, 20	研究助成 目的・内容：わが国の助産学と母子保健の発展の図ることを目的に、毎年学術奨励研究ならびに委託研究助成を行い、その成果を研究終了後広く公表している。委託研究については「健やか親子21」の課題2に関連した研究課題について公募し、現在審査中である。 対象：助産師 開催数：助成規模 委託研究助成 50万円 学術奨励研究助成 30万円
	15	「助産所における妊産婦と助産師の記録：妊産婦管理記録」の開発 目的・内容：平成15年度に継続して、情報開示の一環として助産師と妊産婦が共有して保管する記録の開発（記録の修正ならびにグリテストの実施）を行った。 対象：グリテスト：依頼助産所10施設、依頼妊産婦50名 効果：グリテストの結果、記録内容の各項目は概ね好評であった。妊産婦からは分娩進行と出産時の要約、新生児の状態が具体的記録に残ることを喜び、記念になる、情報交換資料になる。搬送時当に役立てて欲しい等の意見があった。 本管理記録は今後、日本助産学会、日本助産師会のHPからダウンロードできるように検討中である。	15, 20	ワークショップ・フォーラム開催 目的・内容：「健やか親子21」の目標達成に向けた企画を計画する予定である。 対象：助産師、医療関係者、一般、学生 開催予定：詳細は本学会ホームページ、学会誌、ニュースレター等で広報、情報提供を行う http://www.square.umin.ac.jp/jam/
	20	第19回日本助産学会学術集会開催 目的・内容：＜テーマ＞「出産・子育てを支える助産ケア：人と環境の視点から」 ＜学術集会長＞宮中文子（京都府立医科大学） ＜開催日・場所＞平成17年3月19日・20日、国立京都国際会館 対象：＜参加者数・2日間＞学会員 456名、非学会員 377名、一般・学生 224名、合計 1057名 効果：会長講演、特別講演、教育講演（2題）、一般演題（口演83題、ポスター43題、計126題）		

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
35. 日本助産学会	15, 20	<p>フォーラム開催～産科病棟の混合化に関する実態と改善に関する啓発事業 支援:厚生労働省、共催:(社)日本助産師会 目的・内容: <テーマ> 母子に優しいケアを実現するために <基調講演> 産科病棟の混合化に関する実態 産科診療の特質を生かした管理システム <話題提供> 看護部から独立した病院内助産院システム 妊産婦から選ばれる産科を目指して「アイデアを探そう」 *フォーラム口演集作成(300部作成) 対象:助産師等看護職、医師、一般・学生(第1回京都開催=参加者数:107名 第2回東京開催=参加者数:191名) 開催数:2回開催(第1回 平成16年11月27日(土)13~16:30、京都リサーチパーク東地区サイエンスホール 第2回 平成17年1月29日(土)13~16:30、星陵会館) 効果:わが国の出生場所の半数以上が病院であり、昨今の少子化に伴い病院の多くは産科単独の病棟ではなく混合病棟化し、助産師の業務も煩雑化し、妊産婦・新生児のケアがおろそかになしやすいう状況であることが、平成15年度の日本助産師会の調査で明らかになった。その調査結果を踏まえ、個々の問題ではなく、社会の問題として捉え、事態を共有し、改善策を探ることを目的とした。その結果、母子に優しい環境について考える機会となり、助産師が出産環境を整えるのは責務であること、助産師の働き方についても考える機会となった。</p>		
	15, 20	<p>フォーラム開催 共催:NPO法人お産サポートJAPAN 目的・内容: <テーマ> 女性と子ども、家族の人権を守る専門職教育を考える～質の高い看護・助産教育に向けての4つの視点～ 対象:助産師・看護 一般 参加者:84名 開催:平成16年12月4日(土) 東京八重洲富士屋ホテル 効果:よりよい出産・子育てに向けた女性と子ども、家族の人権を尊重した質の高い助産ケアを実践するためには、質の高い助産教育が提供されることが必須である。そのために必要な教育のあり方について教育・実践に携わる助産師、ケアの受け手である消費者からの問題提起、現状の問題点の共有・確認、今後の取り組みの方向性について熱心に検討、する機会となった。</p>		

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
36. (社)日本助産師会	14, 15, 16, 18, 19, 20,	7つのテーマの共通の取り組みを行った。 1.助産所業務ガイドラインの普及 / 2.助産所における安全性の推進 / 3.出産の安全性と快適性に関する研修会開催 / 4.産後うつ病を含む心のケア促進 / 5.産婦人科医・助産師の確保と養成及び資質の向上推進 目的・内容 妊産婦死亡の防止や周産期医療ネットワークの整備と機能の向上に向け 1.助産所部会全員にガイドライン配布 / 2.関連専門団体との連携を図った / 3.47都道府県に安全対策委員を設置した / 4.助産所機能評価(自己評価)実施 / 5.出産の安全性と快適性に向けての知識 技術修得に関する研修会実施 対象 :1.会員 非会員助産師 / 2.助産関連諸団体 / 3.47都道府県日本助産師会支部 / 4.市町村 / 5.厚生労働省 / 6.文部科学省 開催数 :1.北海道・東北地区 / 2.関東地区 / 3.東海・北陸地区 / 4.近畿地区 / 5.中国・四国地区 / 6.九州・沖縄地区 / 7.東京都 / 8.愛知県 / 9.大阪府 / 11.徳島県 合計14回開催 効果 :1.助産所業務ガイドライン配布により、業務範囲が明確になり、取り扱いの安全性の確保ができた。 / 2.研修会の開催により、対象助産師に、出産における安全性と快適性への認識を高めることができた。 / 5.関係他団体との交流から連携が深まってきた。	14, 15, 16, 18, 19, 20, 22	助産所業務ガイドラインの普及促進を図る。 目的・内容 講習会、研修会等時宣伝・広告を行う 対象 :会員 非会員助産師 開催数 :主催・共催 後援研修会時に行う
			14, 15, 16, 18, 19, 20, 22	助産所における安全性の推進を図る。 目的・内容 :1.毎週金曜日実施の安全対策室の充実 / 2.支部安全対策委員の研修会実施 / 3.助産所機能評価の実施 / 4.助産所における分娩の評価を実施 対象 :開業助産師 開催数 :1)助産所機能評価は毎月支部安全対策委員の研修会は1回 2)助産所における分娩評価は厚生科学研究の一環で行う
			14, 15, 16, 18, 19, 20, 22	出産の安全性と快適性に関する研修会を開催する。 目的・内容 :1.救急対応強化研修会 / 2.自然分娩セミナー / 3.産科リスクマネジメント / 4.アクティブバース研修会 / 5.産科ME診断技法 / 6.開業セミナー 対象 :会員 非会員助産師 開催数 :合計8回の予定
			14, 15, 16, 18, 19, 20, 22	産婦人科医・助産師の養成及び資質の向上の推進を図る。 目的・内容 :厚生労働省、文部科学省等の関係機関への要望を行う 対象 :厚生労働省、文部科学省、関係諸団体
			14, 15, 16, 18, 19, 20, 22	潜在助産師研修の実施 目的・内容 :出産の行われている場所は、どこであろうと助産師が常在するよう 潜在助産師の就業を図る 対象 :潜在助産師 開催数 :福島県、東京都、大阪府福岡県で4回開催
37.日本性感染症学会	20	ガイドライン2004 目的・内容 :ガイドライン2004を作成し、産婦人科等の医師の性感染症診断・治療の向上を計った。	20	次回ガイドライン作成に向けて鋭意準備する予定です。

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
38.日本赤十字社	20	助産師養成 目的・内容 助産師の確保及び育成のため 対象 助産師を志す学生（平成16年度は66名受験で全員合格） 開催数 助産師学校及び赤十字学園管轄下4大学にて運営。	20	助産師養成 目的・内容 助産師の確保及び育成のため。 対象 助産師を志す学生。（平成16年度は66名受験で全員合格。） 開催数 助産師学校及び赤十字学園管轄下4大学にて運営。
	14, 15, 19, 23, 24, 25, 26, 36, 53, 60	総合周産期母子医療センター 目的・内容 周産期医療の充実のため 対象 患者様及びそのご家族 開催数 全国で7赤十字医療施設にて設置	14, 15, 19, 23, 24, 25, 26, 36, 53, 60	総合周産期母子医療センター 目的・内容 周産期医療の充実のため 対象 患者様及びそのご家族 開催数：全国で7赤十字医療施設にて設置
	14, 15, 19, 23, 24, 25, 26, 36, 53, 60	地域周産期母子医療センター 目的・内容 周産期医療の充実のため 対象 患者様及びそのご家族 開催数 全国で9赤十字医療施設にて設置	14, 15, 19, 23, 24, 25, 26, 36, 53, 60	地域周産期母子医療センター 目的・内容 周産期医療の充実のため 対象 患者様及びそのご家族 開催数：全国で9赤十字医療施設にて設置
	14, 15, 16, 29, 30	妊産婦健康相談の実施 目的・内容 妊産婦の健康管理体制の醸成のため 対象 患者様及びそのご家族 開催数 全国で57赤十字医療施設にて実施	14, 15, 16, 29, 30	妊産婦健康相談の実施 目的・内容 妊産婦の健康管理体制の醸成のため 対象 患者様及びそのご家族 開催数 全国で57赤十字医療施設にて実施
	14, 15, 23, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 36, 46, 48, 52, 60, 61	母親学級の開催 目的・内容 妊産婦の出産・育児に関する学習会の場を提供するため 対象 患者様及びそのご家族 開催数 全国で68赤十字医療施設にて実施	14, 15, 23, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 36, 46, 48, 52, 60, 61	母親学級の開催 目的・内容 妊産婦の出産・育児に関する学習会の場を提供するため 対象 患者様及びそのご家族 開催数 全国で68赤十字医療施設にて実施
43.日本母性衛生学会	19	第45回日本母性衛生学会学術集会 目的・内容 産科救急と地域周産期ネットワークの実際とこれから 対象 約2000名（医師 助産師 看護師 保健師など） 開催数 平成16年9月16・17日 効果 今後の課題が明確になった	20	第46回日本母性衛生学会学術集会 目的・内容 産婦人科医の卒後教育と医療の地域化 対象 約2000名（医師 助産師 看護師 保健師など）平成17年10月6・7日 開催数 会長講演として問題提起する

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
43.日本母性衛生学会	19	第45回日本母性衛生学会学術集会 目的・内容 シンポジウム 1.テーマ 安心して出産できる医療と社会環境の整備をいかにすすめるか(少子化に対する取り組み) 不妊症カップルへの対応 不育症カップルへの対応 働く女性の妊娠出産育児の支援 保育所の問題点と対策 2.テーマ 助産所の安全と快適性いかに確保するか シンポジウム 3.テーマ 地域と施設のの違いによる助産師の役割と今後の課題 対象 約2000名(医師・助産師・看護師・保健師など) 開催数 :平成16年9月16・17日 効果 :上記の課題をシンポジウムで取り上げ総合討論した。	20	第46回日本母性衛生学会学術集会 目的・内容 :今、求められる助産師の役割 対象 約2000名(医師・助産師・看護師・保健師など)平成17年10月6・7日 開催数 :ワークショップとして取り上げ討論する
	19	大分県母性衛生学会 設立総会・学術講演会 目的・内容 :日本母性衛生学会の歩みと周産期医療 対象 :医師・助産師・看護師・保健師など 開催数 :平成16年10月24日 効果 :これからの取り組みに対する問題点を再確認した		
	19	北海道母性衛生学会 総会ならびに学術講演会 平成16年度厚生労働省研究補助金公開市民フォーラム 目的・内容 地域における周産期医療システムの確保 -安全なお産と小児の健やかな生育を目指して- 対象 :医師・助産師・看護師・保健師など 開催数 :平成16年11月20日 効果 :これからの取り組みに対する問題点を再確認した		
	16, 46, 48	教育講演〔1〕妊産婦の心のケア - エビデンスに基づいた実践 - 」（第45回日本母性衛生学会学術集会） 目的・内容 妊産婦の心のケアには身近にいる周産期医療スタッフの役割が大きい。実践例から精神支援と治療を提示する。 対象 :第45回日本母性衛生学会学術集会の参加者 開催数 :1回開催(東京都) 効果 :快適と安全性が重視される妊産婦ケアにあって、心をケアの重要性が再確認された。		

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
43. 日本母性衛生学会	16, 45, 46, 48	<p>教育講演 [2] 「産後うつ病 :看護スタッフによる診断と治療」 (第45回日本母性衛生学会学術集会)</p> <p>目的・内容 産後うつ病の頻度はおよそ10%である。助産師による精神疾患の診断方法と心理療法の基礎を紹介する。</p> <p>対象 第45回日本母性衛生学会学術集会の参加者</p> <p>開催数 :1回開催 (東京都)</p> <p>効果 産後うつに対する看護職の関わり方や役割を理解した。</p>		
44. (社)日本産婦人科医会	14	<p>全国妊産婦死亡実態調査を実施し、経年的な傾向の変化を検討した。さらに問題点を抽出し妊産婦死亡率の減少に向けた啓発活動を行った。</p> <p>対象 産婦人科医師(日本産婦人科医会会員)</p> <p>効果 産婦人科医に注意をうながした</p>	14	<p>全国妊産婦死亡実態調査を継続し、経年的な傾向の変化を検討する。また、厚生労働省の協力を仰ぎ、全国統計を集積するよう努力する。</p> <p>対象 産婦人科医師(日本産婦人科医会会員)</p>
	15	<p>課題2 「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」の幹事団体として運動推進を協議した。</p> <p>効果 運動推進ができた</p>	15	<p>課題2 「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」の幹事団体として運動を推進する。</p>
	15	<p>平成16年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業 「妊娠・出産の快適性確保のための諸問題の研究」の分担研究として「バースプラン普及のための産科医師の意識調査」の中で、「快適性」について、産科医師たちがどのように解釈し、医療を実践しているかを把握するため、「分娩の快適性確保」に関する調査を行った。</p> <p>対象 :日本産婦人科医会 定点モニター778施設</p> <p>効果 産科医達も分娩の快適性確保に努力している現況が明らかになったとともに、未だ、快適性の意義が十分、理解されずに行われている現況も明らかとなった。</p>	15	<p>厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業 「妊娠・出産の快適性確保のための諸問題の研究」をもとに、分娩の安全性を損なうことのない快適性の研究を推進する。</p>
	15	<p>出生前小児保健指導 (プレネイタル・ビジット)事業について、都道府県支部での実施状況、指導要項等について検討を行った。</p> <p>効果 実施を考えている各都道府県に対してデータを提出しえた。</p>	15	<p>出生前小児保健指導 (プレネイタルビジット)事業に関して、各支部での活動状況の実態を調査し、有効な活動方法を継続して検討する。また、厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業 「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」は、昨年度で終了したが、今後も推進に向け継続して検討する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
44.(社)日本産婦人科医会	15	パンフレット「新生児聴覚スクリーニング検査のご案内」 厚生労働科学研究「全出生児を対象とした新生児聴覚スクリーニングの有効な方法及びフォローアップ、家庭支援に関する研究」班の作成した新生児聴覚スクリーニング検査パンフレットを日本産婦人科医会全国支部に送付し周知に努めた 対象：日本産婦人科医会都道府県47支部を通じ、日本産婦人科医会会員へ配付した。 効果：各支部より多数の要望があり、周知の効果がみられた。	15	新生児聴覚スクリーニング検査の正しい普及に努め、全国的なスクリーニングの確立に努める。 対象：日本産婦人科医会都道府県47支部を通して行う
	15	平成13年度からの継続事業として行っている厚生労働省雇用均等・児童家庭局長から委託された、母性健康管理に関する電話相談事業を実施した。 対象：労働者数50名未満の事業所で働く事業主および女性労働者、日本産婦人科医会都道府県47支部で実施 効果：年間300件ほどの利用があった	15	事業周知用ポスター、パンフレット 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長から委託された母性健康管理に関する電話相談事業を実施する。17年度は、電話以外の媒体の模索も含め相談事業を拡大する。 対象：労働者数50名未満の事業所で働く事業主および女性労働者。日本産婦人科医会都道府県47支部で実施。
	15	平成16年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究推進事業公開シンポジウム（平成17年3月4日、東京・JAホール） 演題「妊娠出産に関する安全性と快適性 - その多様性と流動性 - 」 シンポジスト：谷 昭博 対象：専門職者 約120名 効果：日本産婦人科医会の考えを公表できた。	16	妊婦・産褥婦のメンタルケアの対応可能な「妊娠・育児に関するカウンセリング機関」を日産婦医会関連団体である「日母おぎゃー献金基金」ホームページに継続掲載する。（日産婦医会ホームページにリンク）
	16	妊婦・産褥婦のメンタルケアの対応可能な「妊娠・育児に関するカウンセリング機関」を日産婦医会関連団体である「日母おぎゃー献金基金」ホームページに掲載した。（日産婦医会ホームページにリンク） 対象：一般 効果：妊産婦に対し、情報として利用できるシステムを整備した	18	「母性健康管理指導事項連絡カード」について、ホームページに掲載し継続して啓発に努める。 対象：一般
	18	「母性健康管理指導事項連絡カード」について、ホームページに掲載し周知をはかるとともに、厚生労働省からの周知依頼により全会員に広報用ポスターを配付し普及の啓発に努めた。 対象：日本産婦人科医会会員 約12,700名 効果：普及を期待している。	19	産科若手医師の確保・育成のため、(セミ)オープンシステムの意義を模索し、検討を行う

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
44.(社)日本産婦人科医会	19	厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」に関連して、「オープンシステム体制」について調査を行った。 効果：静岡県浜松市と米国における実態をまとめた。また、雛形となる契約書モデルを作成し、実施を容易なものにした。	19	新生児聴覚スクリーニング検査について、継続して検討を行う。
	19	日産婦医会として「周産期医療を考える連絡会議」を設け、産科オープン・セミオープンシステムについて、日産婦医会として現状における考え方をまとめた。 効果：医会会員に対して、概念を周知した。	19	新生児蘇生技術の習得に向けNeonatal Resuscitation Program(NRP)について資料を集め検討する(厚生労働科学研究「発達期に発生する外因性脳障害の診断・治療ガイドラインに関する臨床的・実証的研究」)。
	19	NICUベッド稼働率の低下の問題や、NICU長期入院児をかかえる家族の育児負担、精神的負担、経済的負担も社会的問題化していることから、全国主要NICUの長期入院患者について実態調査を行い調査結果をまとめた。 効果：行政等に対しNICU後方支援システム(施設)設立へ向けた要望書を提出する予定。	19	総合周産期母子医療センター設置の推進。地域毎の充足率の把握を行う。
	19	平成16年度厚生労働科学研究補助金公開市民フォーラム「お産 安全性と快適性を求めて - これからの医療システムを求めて - 」(平成16年10月31日、仙台市・良陵会館) 「お産 安全性と快適性を求めて - 産科オープンシステムに対する日本産婦人科医会の考え方」について講演を行った。講師 朝倉啓文 効果：各分野から、現状の産科医療の問題点が抽出され、今後は産科オープンシステムを可能なところで考える。病院側の負担は増すため、人員の確保など十分な準備が必要で、仙台では、第3次産科システムの下に「お産の拠点病院」などを構築することも提案された。	19	周産期の児の予後を改善する目的で、早産予防に関する多施設前向き研究を開始し児の周産期予後の改善点の把握に努める。(会長は昭和大学岡井教授、世話人として朝倉、田中両常務理事が参加。)
	20	平成16年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」の中で分担研究として、産科リスクを軽減する体制について(産科オープンシステムについて)研究を実施した。 効果：厚生労働省のモデル事業として発展した。	20	産科若手医師の確保・育成のため、(セミ)オープンシステムの意義を模索し、検討を行う。

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
44.(社)日本産婦人科医会	21	不妊専門相談センター設置の推進のため、現在設置数の把握及びホームページに掲載し周知に努めた。 効果：一般市民に対して情報を公開し、情報の利用が可能なものとした。	21	不妊専門相談センター設置の推進のため、現在設置数の把握に努める。
45.日本母乳の会	15.16.20.21.22	九州シンポジウム実行委員会の開催 目的：シンポジウムのテーマ、講演者、内容等、論議 対象：参加人数：40～50名、産科医、小児科医、助産師、その他 開催数：7回開催 効果：多くの方と論議をしながら、シンポジウムを作り上げていくので、九州地区の母乳育児が広がった。	15.16.20.21.22	第14回母乳育児シンポジウム岡山実行委員会 目的：シンポジウムのテーマ、講演者、内容等、論議。月1回開催 効果：多くの方と論議をしながら、シンポジウムを作り上げていくので、中四国地区の母乳育児が広がっていく 参加人数：40～50名、 産科医、小児科医、助産師看護師、保健師、臨床心理士、母親、その他 開催数：月1回の開催で7回。
	15.16.20.21.22	第13回母乳育児シンポジウムの開催 目的・内容：母子同室・母乳育児の推進のために広く深く理解をしていただく 特別講演「家族の起源」山極寿一 京都大学理学部動物学科 教育講演「匂いや体内時計を介した母子間コミュニケーション」篠原一之 長崎大学医学部生理学教室 シンポジウム1「母乳育児と教育」 シンポジウム2「母乳育児をすすめる上でわすれてはならないこと」 市民交流会「母乳育児を市民と語る」テーマ：母乳育児何でもQ&A 参加人数：1200名(産科医、小児科医、助産師、看護師、保健師、母親、父親等)	15.16.20.21.22	第14回母乳育児シンポジウムの開催 目的：母子同室・母乳育児推進の全国的な広がりを見せている。 特別講演「堀内 勤 聖マリアンナ医科大学小児科学教室教授「赤ちゃんとお母さんの別れと出会い - 母乳育児」」 基調講演「山内 芳忠 国立病院機構岡山医療センター 臨床研究部長・小児科 「母乳育児運動 - 過去に学び、未来への橋渡し」」 シンポジウム1「今、医療施設に求められる入院中の母乳育児確立への支援」 シンポジウム2「どうのりきる？おっぱいのピンチ！ - ちょっとじゃましてませんか？」母乳育児継続の工夫 子育て交流会「だからおっぱい だけのおっぱい」 対象：参加人数：1300名(産科医、小児科医、助産師、看護師、保健師、母親、父親等)
	15.16.20.21.22	第13回母乳育児シンポジウム・ポスター 目的・内容：全国産科施設に配布し、掲示を依頼 対象：西日本を中心とした産科施設に配布 配布数：2000枚	15.16.20.21.22	第14回母乳育児シンポジウム・ポスター 目的・内容：全国産科施設に配布し、掲示を依頼 対象：西日本を中心とした産科施設に配布 配布数：2000枚

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
45.日本母乳の会	15.16.20.21.22	第13回母乳育児シンポジウム・チラシ 目的・内容:福岡を中心に中四国の母親向けの案内 対象:保健センター、子育て支援センター、産科施設で配布 配布数:5000枚	15.16.20.21.22	第14回母乳育児シンポジウム・チラシ 目的・内容:岡山を中心に中四国の母親向けの案内 対象:保健センター、子育て支援センター、産科施設で配布 配布数:5000枚
	15.16.20.21.22	ワークショップの開催 目的・内容:母乳育児の理解を深めるために、医療者の少人数によるワークショップ 対象:約80名、母乳育児を進める施設の指導者 開催数:10月三重で開催 効果:東海地区の母乳育児の広がり、みえ母乳の会の発足	15.16.20.21.22	ワークショップの開催 目的・内容:母乳育児の理解を深めるために、医療者の少人数によるワークショップ 効果:青森、千葉地区の母乳育児の広がりが期待される 対象:約80名、母乳育児を進める施設の指導者、及び実践スタッフ 開催数:年2回、5月青森、10月千葉で開催
	15.16.20.21.22	赤ちゃんにやさしい病院「BFH」認定業務 目的・内容:13施設申請、書類審査を経て、減津調査8施設、認定5施設。佐賀・内野産婦人科、福岡・愛和病院、岡山・サンクリニック、富山県立中央病院、岐阜・西川レディースクリニック。 母乳育児推進の地域的な中心ができる。また、子育て支援を妊娠中から始め、地域の子育て支援の核となっていく 対象:申請の施設 開催数:現地調査、8箇所、延べ、40人が審査	15.16.20.21.22	赤ちゃんにやさしい病院「BFH」認定業務 目的・内容:13施設申請、書類審査を経て、現地調査7施設、現在調査中。母乳育児推進の地域的な中心ができる。また、子育て支援を妊娠中から始め、地域の子育て支援の核となっていく 対象:申請の施設 開催数:現地調査、7箇所、延べ31人
	15.16.20.21.22	各地の母乳の会、および、母親グループへの講師派遣や支援 目的・内容:地域の母乳の会後援、講師派遣、母親たちへの支援 対象:札幌、岩手、山形、宮城、東京、静岡、岐阜、愛知、山梨、神奈川県、大阪、高知、島根、富山	15.16.20.21.22	BFH施設での母親満足度調査 / 各地の母乳の会、および、母親グループへの講師派遣や支援 目的・内容:厚生科学研究として、BFH施設で出産した母親たちの意識、産後うつ調査。地域の母乳の会後援、講師派遣、母親たちへの支援 対象:BFH34施設で出産した母親たち(札幌、岩手、山形、宮城、東京、静岡、岐阜、愛知、山梨、神奈川県、大阪、高知、島根、富山)
	15.16.20.21.22	BFH申請希望病院への講演・研修会 目的・内容:BFH認定のための院内スタッフの研修、BFH認定申請の増加 対象:産科施設の産科医、小児科、助産師、看護師他スタッフ 開催数:福岡、富山、弘前、山形、島根、他	15.16.20.21.22	BFH申請希望病院への講演・研修会 目的・内容:BFH認定のための院内スタッフの研修、BFH認定申請の増加 対象:産科施設の産科医、小児科、助産師、看護師他スタッフ 開催数:未定

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
45. 日本母乳の会	15.16.20.21.22	第12回母乳育児シンポジウム記録集発行、販売 目的・内容：シンポジウムの記録、および広報活動の一環として作成、会員配布、各地の母乳の会、関連学会において販売。シンポジウム参加者の増加 対象：産科医、小児科、助産師、看護師、他スタッフ、母親等母乳育児に関心のある一般 配布数 2000部	15.16.20.21.22	第13.14回母乳育児シンポジウム記録集発行、販売 目的・内容：シンポジウムの記録、および広報活動の一環として作成、会員配布、各地の母乳の会、関連学会において販売。シンポジウム参加者の増加 対象：産科医、小児科、助産師、看護師、他スタッフ、母親等母乳育児に関心のある一般 配布数 2000部
	15.16.20.21.22	「卒乳 おっぱいはいつまで」小冊子、作成・販売 目的・内容：母乳育児継続のために、障害となっている事柄についての解説、母親支援、子育て不安の解消として啓蒙 対象：産科医、小児科医、歯科医、保健師、助産師、看護師、他スタッフ、母親等母乳育児に関心のある一般 配布数 5000部、再販5000部	15.16.20.21.22	「母乳と虫歯」小冊子、作成・販売 目的・内容：母乳育児継続のために、障害となっている事柄についての解説、母親支援、子育て不安の解消として解説 対象：産科医、小児科医、歯科医、保健師、助産師、看護師、他スタッフ、母親等母乳育児に関心のある一般市民 配布数 部数未定
			15.16.20.21.22	「WHO・ユニセフの母乳育児成功のための10カ条のエビデンス」翻訳発行 目的・内容：母乳育児を成功させるための10カ条」の実践にあたってのエビデンスを提示 対象：産科スタッフ及び、小児科医 配布数 部数未定
48. (財)母子衛生研究会	1～4, 15, 16, 18, 28, 35, 37, 38, 45, 48, 49, 55	「母子保健指導者研修会」開催 目的・内容：「健やか親子21」の課題をふまえ、地域母子保健活動の一層の向上を図る 対象：保健師、助産師、看護師、保育士等母子保健関係者9,200名 開催数：46回開催（新潟県を除く全都道府県） 効果 地域母子保健活動の向上に寄与できた	1～4, 15, 16, 18, 28, 35, 37, 38, 45, 48, 49, 55	「母子保健指導者研修会」 目的・内容：保健、教育、福祉等の分野を越えた連携を図り、母子保健の諸問題への対応。 対象：保健師、助産師、看護師、保育士等母子保健関係者 10,000名 開催数 年間47回

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
48. (財)母子衛生研究会	14, 15, 18, 29, 30	母子保健教室」開催 目的・内容 妊娠・出産・育児についての正しい知識の普及啓発および最新情報の提供。 対象 妊婦および家族 14,000名 開催数 :81回開催(全国5大都市および近郊) 効果 妊娠・出産・育児に対する不安の軽減と自身を与えることができた。	14, 15, 18, 29, 30	母子保健教室」 目的・内容 妊娠・出産・育児についての正しい知識の普及啓発および最新情報の提供。 対象 妊婦および家族15,000名 開催数 年間81回
	14～16, 18, 23, 25～30, 33, 35～38, 46, 48, 52	母子健康手帳副読本「赤ちゃん - そのしあわせのために」配布 目的・内容 妊婦に対する妊娠・出産・育児についての正しい知識の普及啓発 対象 妊娠届出時に母子健康手帳副読本として妊婦130万人に配布 配布数 全国の市町村等を通じて130万部配布 効果 妊婦が妊娠・出産・育児に対する正しい知識を身につけることができた。	14～16, 18, 23, 25～30, 33, 35～38, 46, 48, 52	母子健康手帳副読本「赤ちゃん - そのしあわせのために」配布 目的・内容 妊娠・出産・育児についての正しい知識の普及啓発。 対象 妊娠届出の妊婦 130万人 配布数 年間約130万部
49. (社)母子保健推進会議	2, 3, 8, 9, 10, 16, 44, 45, 46, 52, 53,	地区別母子保健事業研修会 目的：「健やか親子21」は各地域でそれぞれの特性を生かしながら推進されている。関係機関の連携を深め新しい知識を共有することを目的とする。 内容：母子保健における虐待予防、EPDS・MCGを用いた産後うつ・育児不安の軽減、ピアカウンセリングと思春期保健、周産期からの子育て支援 等 対象：保健師、助産師、自治体母子保健担当者、母子保健推進員、保育士等計約1,000名 開催数：6会場で開催（宮城県 群馬県 奈良県 香川県 佐賀県 札幌市） 効果：最新の情報を取得するとともに、近県の関係者が集まることで連携を深める機会	2, 3, 8, 9, 10, 16, 44, 45, 46, 52, 53,	地区別母子保健事業研修会 目的：「健やか親子21」は各地域でそれぞれの特性を生かしながら推進されている。そのため、関係機関の連携を深め、新しい知識を共有することを目的とする。 内容：母子保健における虐待予防、育児不安の軽減、ピアカウンセリングと思春期保健、周産期からの子育て支援を目指して など 対象：保健師、助産師、自治体母子保健担当者、母子保健推進員、保育士等計約1,000名 開催数：5会場で開催（北海道 栃木県 石川県 鳥取県 長崎県）

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
49.(社)母子保健推進会議	15, 62	歯科保健研修会 目的 :母子保健推進員等を対象に歯科保健知識の普及を図る 内容 :妊婦と乳幼児への口腔ケア、乳幼児の発達と歯科、心がつくる顔と歯ならび 対象 :母子保健推進員、保健師、自治体母子保健担当者 開催数 :母子保健推進員研修会等に併設して15会場で開催 効果 :母子保健関係者にも歯科保健の知識を深める機会となり 意識も高揚した。	15, 62	歯科保健研修会 目的 :母子保健推進員等歯科保健専門職でない方々を対象に歯科保健知識の普及を図る 内容 :妊婦と乳幼児への口腔ケア、乳幼児の発達と歯科保健など 対象 :母子保健推進員、保健師、自治体母子保健担当者 開催数 :母子保健推進員研修会等に併設して13会場で開催
	37, 38, 48, 49, 55	リーフレット「丈夫な赤ちゃんを生ま育てましょう」・元気に育てよう私の赤ちゃん」 目的 :母子保健推進員が妊婦や乳幼児のいる家庭を訪問する際の配布教材 内容 :妊娠中から乳幼児期の子どもの特徴、気をつけること等を記したB6判3ツ折のリーフレット 対象 :妊婦・乳幼児を持つ親 配布数 :各20,000部作成・配布 効果 :母子保健推進員等が家庭を訪問する際の配布物として母親に必要な情報の伝達する手段として活用されている。	37, 38, 48, 49, 55	リーフレット「丈夫な赤ちゃんを生ま育てましょう」・元気に育てよう私の赤ちゃん」 目的 :母子保健推進員が妊婦や乳幼児のいる家庭を訪問する際の配布教材 内容 :妊娠中から乳幼児期の子どもの特徴、気をつけること等を記したB6判3ツ折のリーフレット 対象 :妊婦・乳幼児を持つ親 配布数 :各20,000部作成配布
	18, 27, 28, 33, 40	ポスター「子どもを家庭内の事故から守りましょう」 目的及び内容 :母子保健強調月間(10月)に併せ制作、母健連絡カードの利用促進と子どもの事故予防の啓発を図る 対象 :都道府県、政令市、中核市、関係団体 配布数 :45,800枚制作配布 効果 :子どもの事故予防と母健連絡カードの利用促進の意識の啓発につながる。	8, 27, 28, 33, 40	ポスター「子どもを家庭内の事故から守りましょう」 目的及び内容 :母子保健強調月間(10月)に併せ制作、母健連絡カードの利用促進と子どもの事故予防の啓発を図る 対象 :都道府県、政令市、中核市、関係団体 配布数 :20,000枚制作配布

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
49. (社)母子保健推進会議	16, 46, 48, 49, 58	第1回子育てピア支援者養成セミナー 目的 地域で親子に寄り添い子育てをサポートする母子保健推進員等を支援 養成する保健師等を養成し、母親の育児不安の軽減、虐待に至る芽を摘み子育てを支援すると同時に、自身が持つ本来の力を取り戻す 内容 エンカウンター、ピアカウンセリング等の理論とスキルを実習中心に学ぶ。 対象 保健師、保育士、行政母子保健担当者等 開催数 1回 (東京で開催) 30名 効果 セミナー受講生自身本来の力を取り戻し、表情が受講前と後ではまるで変る。また各地域に戻り同様の研修会を実施、母親が自信と元気を取り戻した等の報告が多く寄せられている。	16, 46, 48, 49, 58	第2回子育てピア支援者養成セミナー 目的 地域で親子に寄り添い子育てをサポートする母子保健推進員等を支援 養成する保健師等を養成し、育児不安の軽減や虐待に至る芽を摘み子育てを支援すると同時に、自身が持つ本来の力を取り戻す 内容 エンカウンター、ピアカウンセリング等の理論とスキルを実習中心に学ぶ。 対象 保健師、保育士、行政母子保健担当者等 開催数 1回 (東京で開催) 30名
	16, 45, 46, 47, 48, 49, 58,	ピアママ支援者養成事業 目的 孤立した環境で妊娠 出産 育児期を過ごす母親の子どもへの虐待防止を図る。日本財団助成事業 内容 モデル地区 5市町村において、ピアカウンセリングを通しピアママ育成事業を行うとともに、報告会を開催した。現在同事業をまとめた冊子を制作中。 対象 事業の実施者は保健師、ピアママとなるのは地域の母親 開催数 モデル事業実施市町村 (守谷市 熱海市 吉良町 岱明町・日高村) 報告会 1回 (東京) 34名 効果 同事業をモデル実施した5市町村では、参加した母親たちは一様に自信を取り戻し、表情が明るくなり、事業の継続を望む声が強し。	16, 45, 46, 47, 48, 49, 58	ピアママ支援者養成事業 目的 孤立した環境で妊娠 出産 育児期を過ごす母親の子どもへの虐待防止を図る。 内容 モデル地区 5市町村において実施したピアママ育成事業をまとめた冊子を制作 配布 対象 希望する自治体等 配布数 配布数10,000部
	16, 45, 46, 47, 48, 49, 58	子育てピア支援者マニュアル 目的 子育て環境の実態、ピアカウンセリング等について学び、地域で親子に寄り添うための理論と技術を学ぶ。 内容 平成15年度行った子育てピア支援者養成事業の内容をまとめた冊子を制作し、都道府県、希望のあった市町村等に配布した。 対象 全国都道府県、政令市、中核市希望のあった市町村等 配布数 1,000部 効果 現在全国各地で始まったピアママ育成事業のマニュアルの一つともなっており、保健師等指導者から信頼が厚い。	2, 3, 6, 8, 9, 15, 16, 17, 27, 28, 33, 44, 45, 46, 48, 49, 55, 60, 62	組織育成費の助成 目的 母子保健推進員組織の育成 支援、 内容 県レベルの母子保健推進員組織がある7県に対し、各10万円の助成を行う 対象 佐賀県、和歌山県、山口県、富山県、長野県、沖縄県、新潟県の各母子保健推進員協議会 開催数 1回 (7県)

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
- 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 -

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
49. (社)母子保健推進会議	2, 3, 6, 8, 9, 15, 16, 17, 27, 28, 33, 44, 45, 46, 48, 49, 55, 60, 62	組織育成費の助成 目的 :母子保健推進員組織の育成・支援、 内容 :県レベルの母子保健推進員組織がある7県に対し、各10万円の助成を行った。 対象 :佐賀県、和歌山県、山口県、富山県、長野県、沖縄県、新潟県の各母子保健推進員協議会 開催数 :1回(7県) 効果 :県レベルの協議会設置の必要性は皆が認識しながらも予算の捻出が困難であることが多く、同育成費は、母子保健推進員活動を支える大きな力となっている。	1, 2, 3, 5, 8, 9, 15, 16, 18, 27, 28, 29, 33, 40, 43~53, 58, 60, 62	地域母子保健福祉情報紙 母推さん の発行 目的 :地域母子保健の普及、母子保健推進員の資質の向上を図る。 内容 :厚生労働省、専門職の頁、地域母子保健活動の実際、活動している人の声など 対象 :都道府県 保健所・市町村 関係団体等へ月10,000部発行 発行数 :12回(毎月1日10日発行)
	1, 2, 3, 5, 8, 9, 15, 16, 18, 27, 28, 29, 33, 40, 43~53, 58, 60, 62	地域母子保健福祉情報紙 母推さん の発行 目的 :地域母子保健の普及、母子保健推進員の資質の向上を図る。 内容 :厚生労働省、専門職による情報提供、地域母子保健活動の実際、活動している人の声など。 対象 :都道府県 保健所・市町村 関係団体等へ月10,000部発行 発行数 :12回(毎月1日10日発行) 効果 :行政、専門職からの情報、地域における母子保健活動の実際を広く掲載し、毎号全国から多くの反響が寄せられている。		
60. 日本糖尿病 妊娠学会	15	満足できる妊娠・出産への支援 目的・内容 :妊娠糖尿病に関するスクリーニングと妊娠糖尿病にかかった人の分娩後の糖尿病への進展率のフォローアップスタディ。糖尿病妊婦から生まれた奇形児を少なくするため計画妊娠を励行させる。 特に我が国では若年者の糖尿病でも欧米と異なり2型糖尿病が多く見逃されることが多いので、妊娠前から糖代謝異常のチェックを行う必要性を知ってもらう努力を行う。 対象 :2004年12月10日、11日学術集会開催、国立京都国際会館、約400名参加(専門職対象) 開催数 :1回開催 効果 :糖尿病と妊娠に関する学理およびその応用の研究についての発表、知識の交換、会員相互の交流、情報等の提供、啓蒙活動を行うことにより、糖尿病およびこれに準ずる病態を有する妊婦の管理とその児の安全性確保等の進歩に成果をもたらした。	15	満足できる妊娠・出産への支援 目的・内容 :妊娠糖尿病に関するスクリーニングと妊娠糖尿病にかかった人の分娩後の糖尿病への進展率のフォローアップスタディ。糖尿病妊婦から生まれた奇形児を少なくするため計画妊娠を励行させる。 特に我が国では若年者の糖尿病でも欧米と異なり2型糖尿病が多く見逃されることが多いので、妊娠前から糖代謝異常のチェックを行う必要性を知ってもらう努力を行う。 対象 :第21回日本糖尿病 妊娠学会開催、2005年11月25日、26日、岡山コンベンションセンター「ままかりフォーラム」、約400名参加予定

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
61.日本母乳哺育学会	52, 20	<p>第19回日本母乳哺育学会 学術集会 公開講演会 『みんなで進めよう！健やか親子21』</p> <p>目的・内容・学会の初日を一般公開とし、子どもの健やかな育ちの基盤をなす母乳哺育の重要性を特別講演と文化の異なるオランダの母乳哺育と子育ての現状をミニシンポで啓蒙した。</p> <p>対象：一般・保育関係者・小児科医・産科医・助産師・保健師等 約350名</p> <p>開催数：健やか親子21のパンフレットを配布した 300枚</p> <p>効果：母乳哺育が母と子の健康づくりに大切であることを文化や国を超えて理解を深めることが出来た。</p>		<p>第20回日本母乳哺育学会 学術集会 公開講演会 『母乳育児から得たこと』</p> <p>目的・内容・学会の2日午後を一般公開とし、実際に母乳哺育をおこなった母親の体験をもとに、市民と親との交流をはかり、育てる側にたった母乳育児支援について討論する。</p> <p>対象：一般・保育関係者・小児科医・産科医・助産師・保健師等 約350名。職種や、考え方の違いを越えて、母乳育児支援を力を合わせて行うことをめざす。</p> <p>開催・配布数：健やか親子21のパンフレットを配布する。シンポジウム：母乳育児支援を考える＝手をつなぎあった母乳育児運動</p>
67.全国母子保健推進員連絡協議会	2, 3, 8, 9, 10, 16, 44, 45, 46, 52, 53,	<p>地区別母子保健事業研修会</p> <p>目的：「健やか親子21」は各地域でそれぞれの特性を生かしながら推進されている。そのため関係機関の連携を深め新しい知識を共有することを目的とする。</p> <p>内容：母子保健における虐待予防、EPDS・MCGを用いた産後うつ・育児不安の軽減、ピアカウンセリングと思春期保健、周産期からの子育て支援 など</p> <p>対象：保健師、助産師、自治体母子保健担当者、母子保健推進員、保育士等計約1,000名</p> <p>開催数：6会場で開催（宮城県 群馬県 奈良県 香川県 佐賀県 札幌市）</p> <p>効果：最新の情報を取得するとともに、近県の関係者が集まることで連携を深める機会</p>	2, 3, 8, 9, 10, 16, 44, 45, 46, 52, 53,	<p>地区別母子保健事業研修会</p> <p>目的：「健やか親子21」は各地域でそれぞれの特性を生かしながら推進されている。そのため、関係機関の連携を深め、新しい知識を共有することを目的とする。</p> <p>内容：母子保健における虐待予防、育児不安の軽減、ピアカウンセリングと思春期保健、周産期からの子育て支援を目指して など</p> <p>対象：保健師、助産師、自治体母子保健担当者、母子保健推進員、保育士等計約1,000名</p> <p>開催数：5会場で開催（北海道・栃木県・石川県・鳥取県・長崎県）</p>
	15, 62	<p>歯科保健研修会</p> <p>目的：母子保健推進員等を対象に歯科保健知識の普及を図る</p> <p>内容：妊婦と乳幼児への口腔ケア、乳幼児の発達と歯科、心がつくる顔と歯ならび</p> <p>対象：母子保健推進員、保健師、自治体母子保健担当者</p> <p>開催数：母子保健推進員研修会等に併設して15会場で開催</p> <p>効果：母子保健関係者にも歯科保健の知識を深める機会となり意識も高揚した</p>	15, 62	<p>歯科保健研修会</p> <p>目的：母子保健推進員等歯科保健専門職でない方々を対象に歯科保健知識の普及を図る</p> <p>内容：妊婦と乳幼児への口腔ケア、乳幼児の発達と歯科保健など</p> <p>対象：母子保健推進員、保健師、自治体母子保健担当者</p> <p>開催数：母子保健推進員研修会等に併設して13会場で開催</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	16年度の取り組みテーマ	16年度の取り組み実績	17年度の取り組みテーマ	17年度の取り組み行動計画
67.全国母子保健推進員連絡協議会	16, 46, 48, 49, 58	第1回子育てピア支援者養成セミナー 目的 地域で親子に寄り添う母子保健推進員等を支援 養成する保健師等を養成し、母親の育児不安の軽減、虐待に至る芽を摘み子育てを支援すると同時に、自身が持つ本来の力を取り戻す 内容 エンカウンター、ピアカウンセリング等の理論とスキルを実習中心に学ぶ。 対象 保健師、保育士、行政母子保健担当者等 開催数 :1回 (東京で開催) 30名 効果 :セミナー受講生自身本来の力を取り戻し、表情が受講前と後ではまるで変る。また各地域に戻り同様の研修会を実施、母親が自信と元気を取り戻した等の報告が多く寄せられている。	16, 46, 48, 49, 58	第2回子育てピア支援者養成セミナー 目的 地域で親子に寄り添い子育てをサポートする母子保健推進員等を支援 養成する保健師等を養成する。 内容 エンカウンター、ピアカウンセリング等の理論とスキルを実習中心に学ぶ。 対象 保健師、保育士、行政母子保健担当者等 開催数 :1回 (東京で開催) 30名
	1, 2, 3, 5, 8, 9, 15, 16, 18, 27, 28, 29, 33, 40, 43~53, 58, 60, 62	地域母子保健福祉情報紙 母推さん の発行 目的 地域母子保健の普及、母子保健推進員の資質の向上を図る。 内容 厚生労働省、専門職の頁、地域母子保健活動の実際、活動している人の声など。 対象 都道府県 保健所・市町村 関係団体等へ月10,000部発行 開催数 :12回 (毎月1日10日発行) 効果 :母子保健推進会議に協力し制作した本紙は、情報収集、アイデアの提供にもなり毎号全国から多くの反響が寄せられている。	1, 2, 3, 5, 8, 9, 15, 16, 18, 27, 28, 29, 33, 40, 43~53, 58, 60, 62	地域母子保健福祉情報紙 母推さん の発行 目的 地域母子保健の普及、母子保健推進員の資質の向上を図る。 内容 厚生労働省、専門職の頁、地域母子保健活動の実際、活動している人の声など。 対象 都道府県 保健所・市町村 関係団体等へ月10,000部発行 開催数 :12回 (毎月1日10日発行) 効果 :母子保健推進会議に協力し制作した本紙は、情報収集、アイデアの提供にもなり毎号全国から多くの反響が寄せられている。